3 アートプロジェクト等の教育研究事業の実施

(1) 教育研究事業の展開の概要

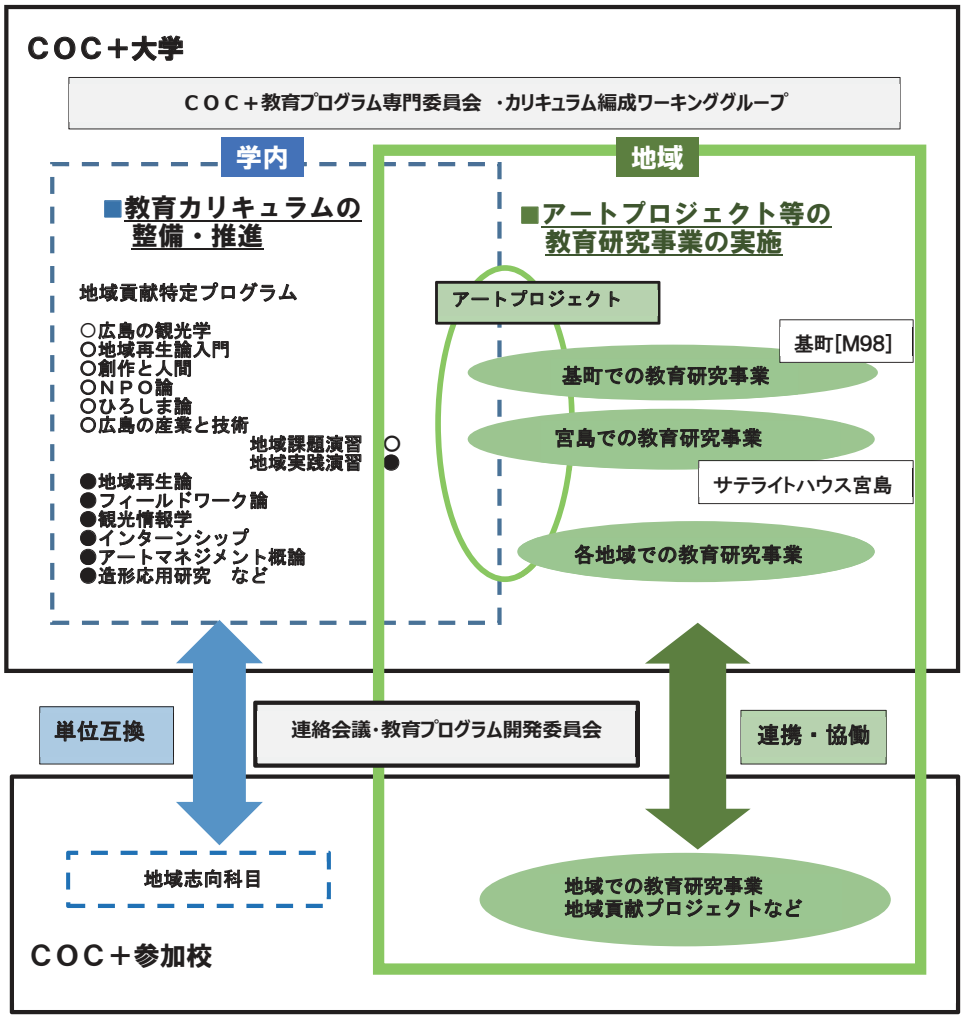
本COC＋事業の主たる目的である、地域に貢献する人材の育成にあたり、その柱として、本学の教育カリキュラムの充実と並んで参加校との協働による教育研究事業がある。この両者は学内と地域において重複する部分もあり、その相関を右の概念図に示す。

教育研究事業は「観光振興」をテーマとしながら、これを地域の実情に即して幅広く捉えるなかで（Ⅰ－8「観光」のとらえ方）、本学は芸術学部によるアートプロジェクを主軸とし、参加校はそれぞれの特長や教育方針を活かして、共同または単独で、各地域における活動を展開した。事業の類型は、調査研究、講座セミナー、作品制作など多彩な内容となっている。

■教育研究事業の類型と内容

（類型）	（平成 29 年度の事業）
調査 研究 演習	■宮島の森林植生の現状把握のための基礎研究 （廿日市市）［広島大学］ ■宮島観光資源の再発見と発信 （廿日市市・呉市・上関町）［広島経済大学］ ■COC＋特定研究の実施(各地域）［広島市立大学］
講座 セミナー	■宮島・土曜講座の開催(廿日市市）［広島工業大学］ ■サテライト講座の開設(柳井市）［広島市立大学］
作品制作・展示 地域デザイン	■アートプロジェクト （広島市・廿日市市・北広島町・安芸太田町）［広島市立大学］ ■アートプロジェクト(尾道市）［尾道市立大学］
地域支援・ 活性化活動 その他	■基町プロジェクト・もとまちカフェ(広島市）［広島修道大学］ ■基町プロジェクト・グローカルキッチンプロジェクト （広島市）［安田女子大学］ ■基町プロジェクト全般(広島市）［広島市立大学］ ■中山間地域と島しょ部の交流による地域活性化 （安芸太田町・呉市・東広島市）［広島国際大学］ ■高齢者健康調査(大崎上島町）［広島商船高等専門学校］ ■社会連携プロジェクト(各地域）［広島市立大学］ ■市大生チャレンジ事業(広島市）［広島市立大学］

本COC＋事業における教育カリキュラムと教育研究事業の相関図



(2) 活動拠点－１ （基町「M98」）

地域での教育研究事業を効果的に進めるため、学生や教員の活動の拠点となるスペースを 2 か所確保し、それぞれ必要な整備を行い活用している。

ひとつは都市部における様々な課題ついての学習拠点となる広島市中区の基町プロジェクト「M98」であり、もうひとつは著名な観光地である廿日市市の宮島に開設した「サテライトハウス宮島」である。

基町プロジェクト活動拠点「M98」	
所在地	広島市中区基町　基町市営住宅内
設置時期	平成 26 年 5 月（平成 29 年度末までに3スペースを追加整備）
施設概要	基町住宅地区の商店街の空き店舗をリノベーション。 COC＋事業以前に開設していた「M98」（交流オフィス）に加えて、平成 28 年度に「M98〈make〉」（工房）、「M98〈eat〉」（キッチン）を、平成 29 年度に「M98〈join〉」（展示・交流）を学生の参加により整備した。
活用内容	基町プロジェクトのスタッフ運営スペース。地域住民との会合。工房やキッチン、展示スペースを活用した、地域の活性化や交流活動。 COC＋参加校との協働事業の展開。

基町プロジェクト「M98」（交流オフィス）

「M98〈make〉」（工房） 創作スペースに改修

「M98〈eat〉」（キッチン）
空き飲食店舗を活用

改修前の
空き店舗

平成 29 年度に実施したリノベーション「M98〈join〉」

空き店舗を、学生が地域学習活動の一環として改修し、展示と交流のスペースによみがえらせた。

（3）活動拠点―2（サテライトハウス宮島）

サテライトハウス宮島（正式名称：広島市立大学 COC＋宮島教育研究所）を、平成 28 年 10 月から、古民家（町家）を借り上げて開設し、建物の一部を改修した上で、平成 29 年 6 月に開設記念展を開催して、地域へのお披露目を行った。

廿日市市宮島は世界遺産であり、観光、歴史文化、自然など様々な学習リソースが豊富に存在している。平成 18 年には広島工業大学が地域環境宮島学習センター「宮島こもん」を、平成 23 年には広島経済大学が宮島セミナーハウス「成風館」をそれぞれ開設しており、COC＋の参加校が各施設を相互に活用しながら、連携して教育研究を実施できる態勢が整うこととなった。

広島市立大学COC＋宮島教育研究施設（通称：サテライトハウス宮島）	
所在地	廿日市市宮島町 672 番地（旧「因幡邸」）
開設期間	平成 28 年 10 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日まで
施設概要	宮島における貴重な町家のひとつ。木造切妻造り（一部2階建て）の京都型町家建築で、通り土間や坪庭を有す。空き家であった建物を借り上げ、家財整理や床板等の一部補修を行った。
活用内容	宮島をテーマにした作品制作や展示、講座・セミナーの開催、フィールドワークの拠点としての活用を想定。 （利用者：本学及びCOC＋参加校の教職員・学生） **■主な利用状況** 芸術展示（開設記念展等）、芸術学部の現地演習、外国人観光客向けのイベント、市民向け講座（広島工業大学土曜講座）、観光に関する学生の研究・活動発表会現地視察、日本都市計画学会視察、NHK「ひるブラ」により全国に放送された。

因幡邸の一部を改修（H28 年度）

作品の制作・展示、講座の開催、地域学習などに活用

因幡邸

建築時期は 19 世紀末（江戸・幕末期）

間口約5．6m、奥行約21m＋α

1階の通り土間を利用した展示空間

（4） アートプロジェクトの実施

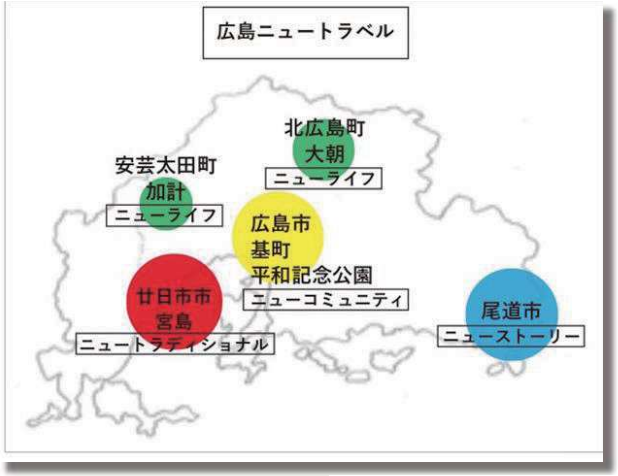
アートプロジェクトは、本学芸術学部が中心となって、事業協働地域の資源や観光のポテンシャルに対して、アートやデザインによる表現力によって、魅力化、活性化、顕在化をもたらすものとなることを目標とする。とくに教育研究事業として行うことから、学生が地域に入って取材、体験、制作を進めるプロセスの中で、作品に込めた思いとともに、学生自らが地域への発見や気づきを得ることが重要となる。

平成 28 年度に実施地域の拡大を検討し、新たな地域として、北広島町大朝（筏津芸術村で彫刻等の創作活動）、安芸太田町加計（製鉄文化をテーマにした作品制作）、尾道市（尾道市立大学との協働による空き家再生プロジェクト等）のプロジェクトを加えた。

平成 29 年度は、統一テーマを「広島ニュートラベル」とし、瀬戸内、広島市都市部、中山間地の各地域において、アート活動により人をいざない交流を進めることをコンセプトに、芸術学部が参加大学や地域と協働しながら、作品制作・展示・ワークショップ、地域活動等を実施した。

各エリアには、サブテーマとして「ニュートラディショナル」（宮島）、「ニューコミュニティ」（基町、平和記念公園等）、「ニューライフ」（大朝、加計）「ニューストーリー」（尾道）を設定し、全体として 5 地域 10 のプロジェクトに、芸術学部の全 10 専攻の学生・教員約 140 名が参加した。

平成 29 年度の総来場者数は 3,258 人であった。



統一テーマと地域別テーマを設定

平成 29 年度　アートプロジェクト

地域 「サブテーマ」	プロジェクト	内　容（赤字は H29 年度新規）	来場者
廿日市市 宮島 「ニュー トラディショナル」	宮島 双六プロジェクト	・宮島の歴史や伝統文化、地域特性をテーマに板目木版画技法を用いた新しいデザインによる「宮島双六観光マップ」を制作。成果物をサテライトハウス宮島で展示 （油絵専攻/参加学生8名）	243人
	宮島 ものづくり産業 復興プロジェクト	・宮島伝統産業会館を活用した宮島轆轤の技術習得、轆轤道具と材料の研究と作品制作 ・全国の木工轆轤の歴史・特徴・技術・現状から次世代への技術継承をテーマに「広島発轆轤の芸術祭」をサテライトハウス宮島で開催 （漆造形/参加学生6名）	150
	宮島 染織プロジェクト	・サテライトハウス宮島を活用した世界遺産登録20周年を記念する空間演出として「宮島に平和の明かりを灯そう」をテーマとした染織造形を制作・展示 （染織造形/参加学生18名）	200
広島市 基町 「ニューコミュニティ」	基町プロジェクト	・M98 <join>の設置（作品展示・交流スペースとして活用） ・オープンミーティングの開催（毎月第3土曜日に学生や基町地区住民との交流） ・クリエイター・イン・モトマチの実施（若手クリエーターによる基町住宅地区内のサインデザイン「基町リデザイン」） ・モトマチ・アートウィンドウの開催　・Mトークの実施 ・「もとまちカフェ」の実施（広島修道大学との協働） ・創作スタジオ「M98<make>」で、未来の基町を考える模型を制作 ・基町の歴史や魅力を紹介する「基町、昔の写真展」を開催 ・グローカルキッチンプロジェクトの開催（安田女子大学との協働）	2039
広島市 市内中心部 「ニューコミュニティ」	観光客に伝えたい 新しい広島	広島市外（海外を含む）から広島へ観光に来ようと考えている人々へ、新しい視点でのビジュアルイメージを伝える （視覚造形/参加学生 19 名）	アートウインドウに展示確認不能
広島市 平和記念公園 「ニューコミュニティ」	広島ピース プロジェクト	NHK 広島放送局と長崎放送局が 2007 年から毎年放送している特集番組「ヒハグシャからの手紙」を NHK 広島放送局と協働し、8 月の放送へ向けた記録映像を学生が主体となって制作 （映像メディア造形/参加学生5名）	115
北広島町 大朝 「ニューライフ」	筏津（いかだづ） プロジェクト	・彫刻専攻と立体造形の学生が創作活動スペースの筏津芸術村に滞在し、現地の材料を使って作品を共同制作する ・作品を筏津芸術村等で展示 （彫刻専攻、立体造形/参加学生 20 名）	220
安芸太田町 加計 「ニューライフ」	たたら プロジェクト	安芸太田町を中心とした地域特有のたたら製鉄文化を学習し、鉄をテーマにした作品制作と展示 （金属造形/参加学生8名）	80
尾道市 「ニューストーリー」	尾道プロジェクト	・尾道市立大学との協働プロジェクトを実施 尾道アーティストインレジデンス（AIR 尾道）に滞在するアーティストの空き家再生プロジェクトに市大生と尾道市大生が協働し、ワークショップや作品制作等を行い、その成果を AIR 尾道の展示スペースで発表 （現代表現/参加学生 11 名）	150
	日本画 風景プロジェクト	・尾道の風景をテーマに味わいのある街並みや港の風景を取材、日本画制作の基となるスケッチを現地で行い、作品制作。完成後にオープンキャンパス等で展示 （日本画専攻/参加学生 20 名）	61
		来場者合計	3258人

（5） 各アートプロジェクトの内容

平成 29 年度に実施した 9 つのアートプロジェクトの取組内容は次のとおり。
（基町プロジェクトは別掲）

■宮島双六プロジェクト （油絵専攻/参加学生 8 名）

実施期間　H28 年 4 月～H29 年 3 月
実施場所　廿日市市宮島、サテライトハウス宮島、芸術学部版画工房
展示　H29 年 12 月 16 日～17 日（サテライトハウス宮島）
　　H30 年 2 月 1 日～3 月 31 日（広島市立大学図書館）
来場者数　243 人

【内容】

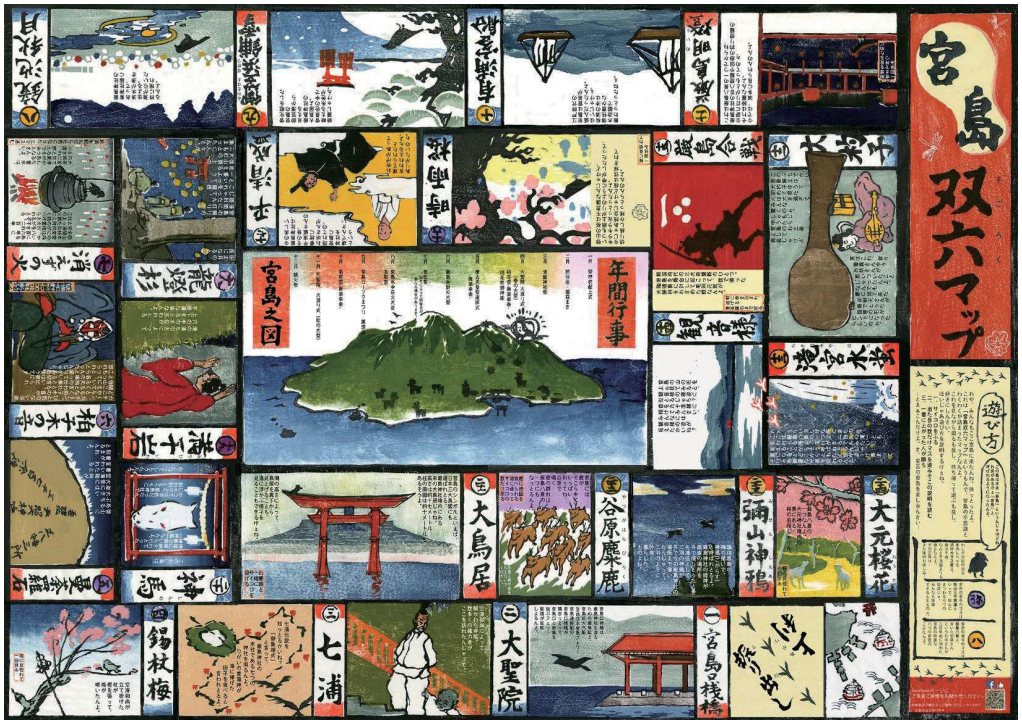
宮島をテーマに、日本の伝統的な遊びの一つである双六と浮世絵などに見られる板目木版画技法を用いて「宮島双六観光マップ」の制作に取り組んだ。

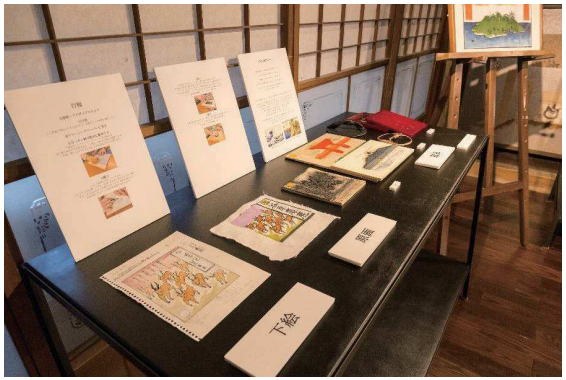
平成 28 年度は宮島での現地取材、双六様式の調査研究、板目木版画技法の習得や絵柄の検討・制作を行った。また、版画家鈴木敦子氏を招聘し「木版画ワークショップ」をサテライトハウス宮島で実施した（その成果物を平成 29 年 6 月 13 日にサテライトハウス宮島の開設記念展において展示した）。

平成 29 年度には、彫りや摺り作業などの原版の本格的な制作を行い、新しいデザインによる観光マップを完成させ、12 月 16･17 日には 20 点の原版を中心とする作品をサテライトハウス宮島で展示するとともに、国際学部の学生・教員とも協力し、「双六観光マップ」の他言語バージョン（裏表が日本語と英語版になっている）を制作し、外国人観光客も使うことのできる宮島双六観光マップを印刷し、展示期間中に宮島桟橋前で配布し、外国人観光客から好評を得た。

また、平成 30 年 2 月から約 1 ヶ月間、本学の附属図書館ラーニングコモンズ「いちコモ」において、学内向けの木版画作品展示を行い、他学部・他専攻の学生や教職員が本プロジェクトを知るためのきっかけ作りや周知活動に積極的に取り組んだ。

本プロジェクトの特徴は、学生個々の作品が最終的には一つの観光マップ（作品）に集約されることにあり、また、双六という日本独自の「遊び」を観光マップに取り入れることによって、観光客が日本の伝統文化に親しみながら、宮島について知り、観光できるという点にある。





完成した宮島観光双六マップと原画の展示

■宮島ものづくり産業復興プロジェクト（漆造形/参加学生 6 名）

実施期間　H27 年 10 月～H30 年 3 月
実施場所　廿日市市宮島伝統産業会館、サテライトハウス宮島
展示　H29 年 9 月 24 日～10 月 1 日（サテライトハウス宮島）
シンポジウム　H29 年 9 月 24 日（広島経済大学宮島セミナーハウス「成風館」）
来場者数　150 人

【内容】

廿日市市及び宮島細工共同組合と協働し、宮島の伝統工芸である「宮島轆轤」の技術習得を目指して、宮島伝統産業会館を活用した木工轆轤の後継者育成を行い、新しい轆轤作品の制作に取り組んでいる。

宮島では、かつて全国に誇れる木工技術による産業が栄えていたが、近年、後継者の不在から技術の伝承が困難となり、産業としての存続が危ぶまれている。そうした地域課題に対して、木工技術を学びたい学生に、宮島の風土・環境の中で伝統産業に触れさせ、基礎的技術を習得させることによって、後継者候補の育成を目指している。後継者の育成に必要なものは、技術習得のための指導者と設備だけでなく、技術習得に取り組みながら地域への理解を深め、地域に住み暮らしたいと思う気持ちを醸成することが大切となる。

平成 29 年度には、制作に関わる学生だけでなく、若い世代に宮島の伝統産業に関心を持ってもらう契機となるよう、プロジェクトで制作した轆轤作品をサテライトハウス宮島で展示し、内外へ向けて宮島轆轤の魅力を紹介した。

また、この展示に合わせて、広島経済大学のセミナーハウス「成風館」を会場に、シンポジウム「魅了する轆轤のかたち －知られざる技と心－」を開催した。宮島轆轤の伝統工芸士藤本悟氏、東京都庭園美術館館長樋田豊郎氏、輪島キリモト 7 代目桐本泰一氏、会津大学短期大学部教授井波純氏、金沢卯辰山工芸漆芸専門員松本由衣氏、広島県立総合研究所主任研究員橋本晃司氏など専門家 8 名をゲストに招いて、全国の主要産地の伝統作品から、個人作家の現代工芸作品まで、各産地の歴史・特徴・技術・現状・次世代への技術伝承などについて紹介した。情報交換をしていく中で、同じように直面する伝統産業の課題を多角的に検証し、新たな方向性への手がかりを見つけようとする、今後の伝統産業の可能性を共有する未来志向のシンポジウムとなった

各地の伝統工芸関係者によるシンポジウムを開催

轆轤技術の習得

サテライトハウス宮島での展示

■宮島染織プロジェクト　（染織造形/参加学生 18 名）

実施期間　H28 年 4 月～H29 年 9 月
実施場所　廿日市市宮島、サテライトハウス宮島、芸術学部染織工房
展示　H29 年 9 月 7 日～11 日 （サテライトハウス宮島）
来場者数　200 人

【内容】

宮島の貴重な古民家である因幡邸（サテライトハウス宮島）の歴史的な空間を活用し、世界遺産登録 20 周年を記念する、染織による空間演出を行った。

旧因幡邸は、江戸時代から宮島門前町東町に建てられ、通り側から居室空間が1列型に続き、細長い土間と坪庭を有した間口約 6m 奥行き約 20m の町家である。こうした日本独特な建築的特長を染織によりどのように生かすかを作品考案の課題とした。

染織技術の一つであるビー玉絞りによって、「宮島に平和の明かりを灯そう」というテーマを設定し、染織造形作品を制作した。素材は繊維を使用し、染色及び製織などを行い、建物内外に灯籠流しをイメージした設置・演出を行った。オモテに位置する仏間には、日本の神を象った造形物を展示し、祈りの場を構成し、有機的な大小様々な灯籠が、昼は自然光によって温かく輝き、夜は LED によって艶やかに発色することにより、宮島を幻想的に彩った。（展示会のタイトルは「深海庭園」）

展示時期は宮島の萬燈会（9 月 8 日～10 日）と同時期に開催したことで、多くの観光客が訪れ、メディアの取材を受けるなど、学生にとって貴重な経験となった。

平成 30 年度は安芸太田町をプロジェクト実施場所に設定し、引き続き染織造形作品を制作・展示する予定である。

染織により瀬戸内海の海中を表現

中国新聞 2017年(平成29年)9月8日(金曜日)『広島都市圏』

宮島の町家 くつろぎアート

広島市立大が染織造形展

世界遺産の島・宮島（廿日市市）の町家を活用した広島市立大（広島市安佐南区）の教育研究施設「サテライトハウス宮島」で7日、染織造形の展示会が始まった。加工したナイロン生地を使って、島を囲む瀬戸内海の海中を表現。住民や観光客がくつろげる空間に仕立てている。

展示品は、芸術学部と大学院芸術学研究科の学生や教員の計10人が手掛けた。和室2間で水色や青、緑に染めた薄い生地をテントのように広げ、天井からつるしている。中に入ると外からの光が海中に差し込む日光のように見え、奥では座って休むことができる。

芸術学部3年三原愛理さん(22)は「安心できる空間に仕上げた。海の中でゆっくり安らいでほしい」と話す。

11日までの毎日、正午から午後9時まで開く（11日は午後5時まで）。無料。（山瀬隆弘）

展示品の仕上がりを確認する学生

来場者も多く、
メディアの取材も受けた

■観光客に伝えたい新しい広島　（視覚造形/参加学生 19 名）

実施期間　H28 年 4 月～H30 年 3 月
実施場所　広島市内、宮島、芸術学部ビジュアルデザイン・スタジオ
展示　H30 年 2 月 17 日～3 月 16 日
（基町プロジェクト展示スペース「モトマチ・アート・ウインドウ」）
来場者数　確認不能（屋外のショウウィンドウでの展示のため）

【内容】

デザイン工芸学科視覚造形の学生が、「広島の新しい観光」という視点で、国内外から広島へ観光に来ようと考えている人々へ、「広島」というイメージを視覚的・魅力的に伝えるポスターのデザイン制作を行い、完成した作品を基町プロジェクトが運営する展示スペース「モトマチ・アート・ウインドウ」において展示した。

学生には、事前に「観光客に伝えたい新しい広島」というテーマを与え、各自がデジタル一眼レフカメラを使って、宮島宇、宇品、路面電車などの観光地・観光資源を調査、撮影し、その写真を元に、学生の目線からの「新しい広島」をビジュアルイメージで表現した。

学生の視点で観光資源を調査・撮影し、ビジュアル作品に仕上げた

■広島ピースプロジェクト　（映像メディア造形造形/参加学生 5 名）

実施期間　H29 年 4 月～H29 年 8 月
実施場所　広島市、広島市立大学芸術学部 CG ラボ、映像メディア造形研究室
展示　H29 年 8 月 1 日～13 日 （NHK 広島放送局 1F ロビー）
放送　H29 年 8 月 4 日午後 7:30～「ヒバクシャからの手紙」
NHK 総合テレビ（中国地方向け）
来場者数　115 人

【内容】

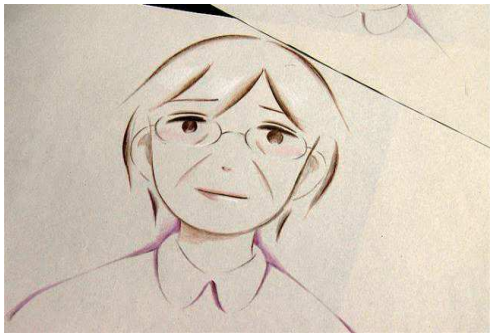
広島には多くの観光客が訪れているが、その多くは平和記念資料館を訪れ、展示により、被爆の実相にふれている。

NHK 広島放送局と長崎放送局が平成 19 年から毎年放送している特集番組「ヒバクシャからの手紙」において、NHK 広島放送局と協働し、昭和 20 年 8 月のヒロシマの記憶を辿りアニメーションによって映像化するプロジェクトに、芸術学部デザイン工芸学科映像メディア造形の学生が参加した。

本プロジェクトは、学生が主体となり、戦争によって被爆した人やその家族、大切な人を亡くした遺族へ取材し、その取材した内容や体験を元に、8 月 4 日の放送へ向けたアニメーションによる記録映像を制作するものであり、広島という土地でアニメーションを学ぶ学生たちが「ヒバクシャからの手紙」に新たな生命を吹き込み、昭和 20 年の記憶を次世代へと語り継ぐことを目的としている。

放送は 1 日のみだったが、制作物の一部を NHK 広島放送局1F ロビーでパネル展示した。平成 30 年度も引き続き「ヒバクシャからの手紙」の制作を進めている。

NHK 広島放送局の
ホームページより転載



ヒロシマの記憶を辿りアニメーションによって映像化

■筏津(いかだづ)プロジェクト　（彫刻専攻・立体造形/参加学生 20 名）

実施期間　H28 年 4 月～H30 年 3 月
実施場所　北広島町大朝「筏津芸術村」、芸術学部石彫工房・木彫工房
展示　H29 年 8 月 11 日～25 日 （筏津芸術村）
来場者数　220 人

【内容】

北広島町大朝の筏津芸術村（旧筏津小学校）を中心に、芸術学部美術学科彫刻専攻とデザイン工芸学科立体造形の学生合同プロジェクトによる現地滞在型作品制作「筏津プロジェクト」を実施した。

北広島町は広島県の北西部に位置し、北は島根県と接している。また、広島都市圏から瀬戸内海の島々の水源地域で、太田川と江の川の源流に位置し、古くから山陽と山陰を結ぶ中継地として栄えていた。歴史的には戦国武将・毛利氏、吉川氏の遺跡群が数多く残っており、神楽や田楽などの民俗芸能、湿原、動植物などの貴重な自然が広がる町である。

平成 28 年度に、そうした北広島町の固有の風土や歴史、伝統、文化等のリサーチを行い、平成 29 年度には北広島町が移住促進に活用している「お試し住宅」を宿泊場所として、学生自炊をしながら、地域の材料などを活用した作品を滞在制作し、完成した作品を筏津芸術村及び地域で展示する「年々歳歳筏津曼荼羅芸術祭」を開催した。

滞在中、作品を制作しながら、地域の子供たちを対象にしたワークショップを開催し、地域住民と一緒にグラウンドゴルフや芸術村での食事会を開催するなど、地域との交流を深めながらプロジェクトを進めた。

また、地域からの依頼により、地元産のクリの大木を用いて、神楽を題材にしたトーテムポール状の作品を制作し、これを筏津芸術村の入り口に設置する予定であり、地域のシンボルとなるよう取り組んでいる。

北広島町大朝の地元の素材で作品を制作

地域に滞在して住民と交流しながら作品を制作し発表した

■たたらプロジェクト　（金属造形/参加学生 8 名）

実施期間　H28 年 4 月～H30 年 3 月
実施場所　安芸太田町、鍛冶屋館、芸術学部金属工房
展示　H29 年 11 月11日～19 日 （安芸太田町鍛冶屋館）
来場者数　80 人

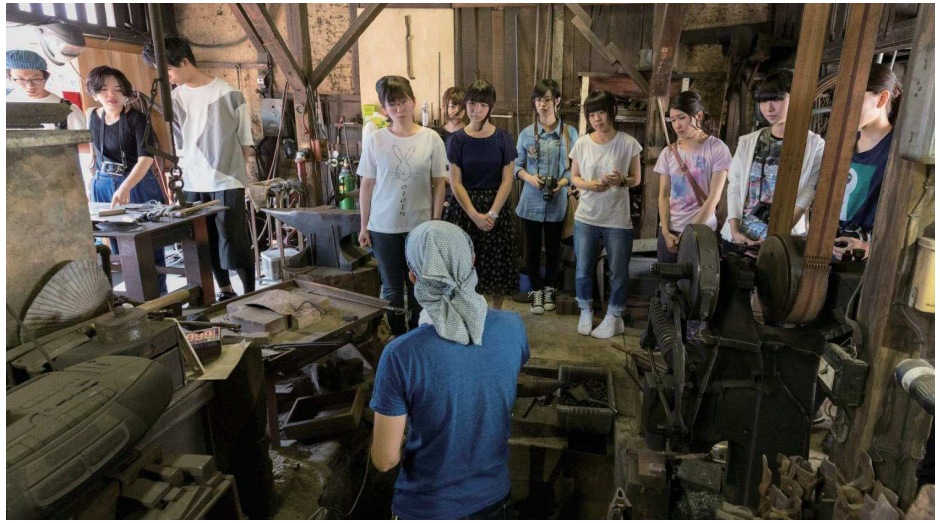
【内容】

安芸太田町を中心とした地域特有のたたら製鉄文化を学び、鉄をテーマにした作品制作と展示を行った。

学生は現地学習として、西中国山地国定公園に位置し、三段峡の東にそびえるなだらかな草原の麗峰、深入山付近のたたら跡の調査や温井ダム、川・森・文化・交流センター（歴史民俗資料館）を見学し、たたらの歴史を学習した。また、民家を活用したギャラリーである「鍛冶屋館」の視察を行い、鍛冶屋館に隣接した工房において、本学芸術学部卒業生で、安芸太田町に移住して伝来の野鍛冶の技術を継承しながら、独自の鍛冶作品を制作している秋田和良氏（鍛冶工房金床を主宰）による鍛冶技術の講習を受けた。

その後、大学の工房で安芸太田町での学習や体験を元に、鉄を素材とした造形作品を制作した。11 月には地域の祭りの時期に合わせて、鍛冶屋館において完成した作品の展示会を開催した。

なお、平成 30 年度は実施場所を宮島に設定し、宮島の新しい土産品をテーマに地域の歴史や文化を調査した上で、金属造形作品を制作・展示する予定である。



本学 OB の主宰する野鍛冶工房を見学

安芸太田町のたたら製鉄の歴史を学ぶ

鉄を素材とした造形作品を制作し住民に披露した